新荒嫁をだいて子の年

とよんだという。又酒に目がなく、疋田家では縁手にとり出しては飲んでいたそうで、酩酊したある日組相して疋田家へお手伝さんがたしなめたところ、

巌めが天上人の真似をして
ひたたれかける四位の少将

とよんだ。又ある折茶に出て、其地の路傍で一憩しているところへ、近郷の人が二、三人、町から兜針を買ってさげて帰るのを見て、

さげてゆく諏訪法性の兜鉢
定めしやすく甲斐の信玄

とやって村人に見せたところ、村人達は感じ入って心が通じたのか請あるるまま、暫時その家にとどまり歌をよんだそうである。

又祖父の書を堅田のある家で見たことがあるが、その家がどこであったか。思い出せない。或はそれは曲浦の書ではなかったか

人間の世界のことは、僅か昨日の事でさえその真相がわからないことがある。まして遠い昔の事ともなれば、どのように解明につとめてもわかりかねるものである。だが不断に心にかけて追求することによって、其の真相は追々明らかになるものと思う。

戸坂曲浦のことも結局はわからないの一語につきるわけであるが、以上掲げた色々な点から何かの手がかりをつかもうとしたが、内容の乏しかったことをお詫びしたい。曲浦について、何か御存知の方があったら御教えいただきたいと希望する次第である。

（住所　佐伯市下堅田字　柏江）

書論

わが佐伯家の伝承

本会会員　佐　伯　利　明
本籍地　北九州市若松地区
勤務地　熊本市

佐伯氏、推定の後はどうなっているか――この問題の一つの資料を熊本市御勤務の佐伯会員から編集者宛に寄せられました。お願いして掲げます。一部省略しました点お許し下さい。例点は編集者がつけました。（羽柴）

（前略）

私、史談会に入会させて戴きましたのも御存知の通り、父が生前、先祖が祭られているのは龍護寺だと伝え聞いているので一度行ってみたいと云っていたので、先年龍護寺を訪れた折、先生にお会い出来た縁からです。

その後転勤も今度で二回で、生家の若松には年に一、二度帰るのみで、生家には現在小倉区役所の社会課に勤めている弟鎮人がいますが、あまり弟は家系に関心がなく、又、私自身調べる暇もなくそのままに打過ぎています。生家には手がかりになるものも殆んどなく、家系については伝説的で、ただ幼い頃祖父母、両親などから聞いた話だけです。

それは、家の先祖は豊後から輿に乗って、この若松に来て、古前の里に住みついて、丁度私で二十代目だということ、かつては大庄屋をしていたということ、先祖はかつて豊後に住んでいた土地の様に古前を神仏に囲まれた土地にしたこと、などです。

古前というところは昔は遠賀郡藤木村の小字です。藤木村については野村家（黒田藩の家老）の拝領地で、村の長は佐伯氏と

いうことも若松市内にある西念寺の過去帳にも記載されています。

私が断片的に調べたところでは、若松の恵比須神社（黒田藩主の尊崇篤かった神社）の大鳥居の寄進者の中に、遠賀郡大庄屋佐伯久五郎の名も彫られていますし、昔の蘇水村の氏神白山神社の参道にある一対の奉納石灯籠にも、天保年間の年号と佐伯斉七敏之の名も彫られ、同じく昔古前にあったといわれ現在若松駅前にある極楽寺（昔天台宗であったが現在浄土真宗）の過去帳にも斉七敏之が鐘を寄進した旨記載があります。

現在土地で佐伯を名乗る家で主だった家は（明治初年にあった家）四軒で、その中で私の家が本家という事で、私が幼い頃には私の家と「柴」「しようづ」の二軒で、先祖の墓である「道閑様」を盆などに祀っていたようです。しかしこの道閑様の墓には「寂道閑之」の四文字しか読めません。仏壇の位牌、寺の過去帳などみましたがわからず歯がゆいばかりで、まーてこの道閑については、語り伝えられている源七という名だけしかわかりません。亡父の話では、刀剣甲冑も沢山あったようですが、現在あるのは備中国住人丈月三郎兵衛国重の刀と、槍しか残っていません。手裡剣なども蜜柑箱に何杯分かあったが、戦時中供出してしまったとの事です。

（ここで本家、分家、一族について詳細に亘る解説あるも割愛）

ただし今、道閑様には墓石だけで何もありません。私の調べは断片的であり、家系の真相はつかめません。大庄屋、庄屋にしても明治前のいつからよりは、していないようで、この点について調べているうち、現在の福岡県筑紫郡仲村炭鉱というところに、明治初年那珂郡仲村で大庄屋をしていた佐伯忠五郎の子孫が数軒あることがわかりましたが、それと関係があるかどうかは判りません。ただあまり遠隔であり郡も違うので関係はないのではないかと思われます。

しかし、家の伝えである、豊後より来た、先祖は龍護寺に祀ってあるという話だけでは、何にもわからず、その真偽について、いつかは解明しなければと思っています。若し第三者を介してでも、若松区古前町二丁目佐伯正則方の系図がわかればと思っています。

それも言い伝え通りに当方かどうかもわかりません。正則さんは以前、三菱造船所若松工場の労務課長をしていたのですが、健在かどうかもわかりません。

正則さんのお母さんは矢張り家付娘で、明治大正時代家で裁縫所を開き、武士の娘として仲々気位が高かったそうです。私の家とはごく近所にあり女ばかりの、前記の経緯もあり、ただ挨拶だけで交際は昔よりありません。

できます事なら史談会として、前述の事情をお含みの上、正則さん方に系図について問い合わせ願えればと思います。

ながながと私事について記しましたことをお詫びしながら筆を擱きます。

史談会の皆様の御健康と益々の御活躍を念じています。

六月五日　　佐伯利明生

羽柴　弘　先生　机下

（編集者付記）

◇前号の高木会長の津市四天王寺探訪、今号の佐賀会員のこれに対する追求、これに応ぜられたようにたまたまの御来状です。併せ読んで大神姓佐伯氏の末流について、会員の研討を願います。解決は急には無理でしょうが階段を三つ四つ昇り更に登ることが出来たようです。

◇先年物故された福岡の大蟹（善之進氏）姓佐伯氏の流れ、愛媛県耳原町の佐伯氏、近鉄社長の佐伯氏、横の繋がりはどのようになっているのでしょうか。全国に数多る佐伯姓の中で、目こり高き大神姓佐伯氏の流れについて、更に追求をつづけたいものであります。　（羽柴）